

国境を越えて運営されるミュージアム

でぐち まさゆき
出口 正之 民博 民族文化研究部

組織としてみたミュージアム

みんなは世界各地のミュージアムとの関係が深い。「ミュージアム」とは一般的な用語であり、何をするとするかという点では国境を越えても一定のイメージは可能である。しかし、組織面に着目するとじつに多様なので一筋縄ではいかない。東京国立博物館や京都国立博物館と同様に、みんなは国立の機関であるから、日本で大規模なミュージアムといえば国公立が多いように思う人もいるだろうが、世界では必ずしもそうではない。世に多いのは民間のミュージアムである。もちろん、民間といっても営利企業ではない。確かに企業ミュージアムが企業の一部としてミュージアムを有することはあるが、単体のミュージアムが営利企業であるというのは、非常にまれだ。儲からないからである。それでは一体何かというと、政府でもない組織（NGO）であって、かつ営利でもない組織（NPO）ということになる。多くは社団ではなく財団の形態をとっている。例えば、みんなと学術交流協定を提携したズニ博物館はアメリカ先住民の小さなグループによって設立された



スペインのビルバオにあるグッゲンハイムの美術館

もので、NPOであり、NGOである。また、同じくアメリカの北アリゾナ博物館も同様のNPOだが、少々複雑で北アリゾナ博物館財団という資金主体と北アリゾナ博物館法人というふたつの組織が運営している。また、民間の博物館は小さな博物館ばかりではなく、世界最大級であるニューヨークのメトロポリタン美術館もアメリカ自然史博物館もNPOであり、NGOである。

多国籍化する財団

現代美術で有名なアメリカのグッゲンハイム美術館は、ソロモン・R・グッゲンハイム財団が運営して、九〇年代から世界展開を始めた。この財団はベネチア、ベルリン、アブダビ、そしてスペインのバスク地方のビルバオに美術館を有するに至っている。米国の美術館の世界展開は「マクドナルド」ならぬ「グッゲナルド」とも揶揄もされたほどだ。多国籍企業ならぬ多国籍財団か。ヨーロッパを中心に、世界的にはこういった流れが拡大しつつあるようだ。みんなもこのような波に飲み込まれてしまうことがあるのだろうか。